



校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第7号 令和3年6月10日

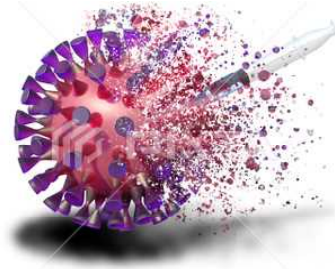
小美玉市立美野里中学校

「やり抜く力」について

最近、コロナワクチンに関連して、よくメディアに登場する女性があります。ハンガリー出身の科学者、カタリン・カリコ博士です。

彼女は、一貫して、遺伝物質の1つ「mRNA」の研究を行いましたが、研究成果をなかなか評価されず、助成金を企業に断られたり、所属していた大学で役職を降ろされたりするなど、40年にわたる研究生生活は苦難の連続でした。しかし、それでもあきらめることなく研究を続け、発見した炎症反応抑制の技術を用いて、新型コロナウイルスのワクチンを開発しました。

現在、日本で接種が始まっているファイザーとモデルナのワクチンはこの技術が使われています。長年の研究が、世界中の人々の尊い命を救うことに結び付いているのです。この研究成果はノーベル賞に値するという声もあがっています。



pixta.jp - 75798872

40年という年月、1つの仕事をやり続けるというのは、並大抵のことではありませんが、中学生でも、その入り口に立つことはできるはずです。

総体が目の前に迫っている今日、「やり抜く力」の第一歩を体験する絶好の機会ではないでしょうか。

『GRIT やり抜く力』という本があります。

この本の中で、「やり抜く力」と「成長思考」は比例していると述べています。「人間は変わる、成長できる」というのです。

「やり抜く力が強い人」には、次のような特徴があります。

1 習慣をつくれる人

自分にとって快適な同じ時間・同じ場所で毎日「練習」を続けられるようにするのです。

2 目的をもっている人

人間にとって「目的」を追うことのできる人生は幸せです。今回、総体を迎えられることは、まさに幸せなことなのです。自分なりの「目的」をもって臨んでください。そして得られた経験をその後の学校生活や進路に結び付けてください。

3 人の役に立ちたいと思っている人

著者は、「自分にとっての究極の目標は、自分という枠を超えて、人々と深くつながっている。」と言っています。また、そういう人は「人に助けを求める」ことが上手な人だとも言っています。前号でお話した「自立と甘え」の關係に似ているかもしれません。

4 楽観主義者

悲観主義者は、困難をずっと続くものであり、原因が分からなくどうにもならないことだと考え、楽観主義者は、困難を一時的なものであり、原因を改善すればよいと考えます。

私たち、子供を支援する教員や保護者にとっては、著者の次のメッセージが響きます。

「子どもの人生をよい方向に変えてやらなくては、なんて気負わなくていいんです。心から相手のことを思って、しっかりと見守っていれば、ちゃんとそれが伝わって、よい変化が起こります。その子の人生に今何が起きているのか、理解しようと努めてください。そして、一緒に乗り越えよう、と手を差し伸べてください。それこそが僕が身をもって経験したことです。そのおかげで、すべてが変わったのです。」

参考文献：『GRIT やり抜く力』 アンジェラ・ダックワーズ著 ダイアモンド社